

倫理学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
倫理学特論Ⅰ	ベルクソンの思想	2	村山 達也	1学期	金	4	倫理学特論Ⅰ
倫理学特論Ⅱ	「呪(じゆ)」の思想	2	戸島貴代志	2学期	火	2	倫理学特論Ⅱ
倫理学特論Ⅲ	行為の哲学	2	笠木雅史	集中(2学期)			倫理学特論Ⅲ
倫理学総合演習Ⅰ	発表と討論	2	戸島貴代志、村山 達也	1学期	月	5	倫理学研究演習Ⅰ
倫理学総合演習Ⅱ	発表と討論	2	戸島貴代志、村山 達也	2学期	月	5	倫理学研究演習Ⅱ
倫理学研究演習Ⅰ	現象学と存在論	2	戸島貴代志	2学期	水	4	倫理学研究演習Ⅰ
倫理学研究演習Ⅱ	現象学と存在論	2	戸島貴代志	集中(1学期)			倫理学研究演習Ⅱ
倫理学研究演習Ⅲ	ベルクソン『創造的進化』を読む	2	村山 達也	1学期	水	2	倫理学研究演習Ⅲ
倫理学研究演習Ⅳ	デカルトとエリザベトの 往復書簡を読む	2	村山 達也	2学期	水	2	倫理学研究演習Ⅳ
倫理学研究演習Ⅴ	道徳批判と倫理学批判 をめぐる諸問題	2	村山 達也	1学期	金	2	倫理学研究演習Ⅴ
倫理学研究演習Ⅵ	人生の意味と死をめぐる諸問題	2	村山 達也	2学期	金	2	倫理学研究演習Ⅵ

科目名：倫理学特論 I / Ethics (Advanced Lecture I)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LM15406， 科目ナンバリング：LIH-PHI619J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学特論 I 】

1. 授業題目：

ベルクソンの思想

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Works of Henri Bergson

3. 授業の目的と概要：

この講義では、ベルクソンの四つの主著（それぞれ自由意志、心身問題、生命論、社会・道徳・宗教論を扱う）について、基本的な議論の展開を確認したうえで、いくつかの問題を取り上げ、その背景・眼目・議論構造を検討します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course introduces the thought of a French philosopher Henri Bergson (1859-1941), covering his four major works, each of which discusses free will, mind-body problem, philosophy of life, and moral philosophy.

5. 学習の到達目標：

- (1)ベルクソンの思想の基本的な主張とその根拠や、解釈上の重要な論点を知ることができる。
- (2)ベルクソンの思想史上の位置づけを（とりわけ近世哲学との対比において）学ぶことができる。
- (3)思想史を研究するのに必要なさまざまな方法を学ぶことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course is designed to help students understand the core elements of the thought of Bergson and learn about general methods used in the study of the history of ideas.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：ベルクソンの思想の概要

第二回：ベルクソンの思想の特徴(1)：主題、発想、方法の観点から

第三回：ベルクソンの思想の特徴(2)：提示（プレゼン）の観点から

第四回：テキスト読解：『直接与件』第一章冒頭部

第五回：『物質と記憶』が取り組んだ基本的な問題と「イマージュ」

第六回：イマージュ概念の正当性の検討(1)

第七回：イマージュ概念の正当性の検討(2)「凝縮」を中心に

第八回：テキスト読解：『物質と記憶』第一章冒頭部

第九回：『創造的進化』第一章の概説

第一〇回：無の観念の批判について：その背景と眼目

第一一回：テキスト読解：論文「可能的なものと現実的なもの」（無の観念の批判）

第一二回：『二源泉』とデュアル・プロセス理論

第一三回：価値観の伝播と感情の伝播

第一四回：テキスト読解：『二源泉』第三章（ベルクソンは神の何を証明したのか）

第一五回：まとめ

8. 成績評価方法：

穴埋めと記述とからなる筆記試験によって評価する。

9. 教科書および参考書：

すべてプリントで配布する。各著作を事前に購入されたい場合には以下のものをお勧めする。

ベルクソン『時間と自由』中村文郎訳、岩波文庫（『意識の直接与件についての試論』と同じもの）

『物質と記憶』杉山直樹訳、白水社

『創造的進化』松井久訳、ちくま学芸文庫

『道徳と宗教の二源泉』森口美都男訳、中公クラシックス

10. 授業時間外学習：

配布するプリントを事前に熟読し、自分なりの分析を試みておくこと（次回読む箇所、分析法などについては授業内で適宜指示する）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "〇" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：倫理学特論Ⅱ／ Ethics (Advanced Lecture II)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：戸島貴代志（教授）

講義コード：LM22205， 科目ナンバリング：LIH-PHI620J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

「呪（じゅ）」の思想

2. Course Title (授業題目)：

Thoughts of 'Ju'

3. 授業の目的と概要：

「呪」とは森羅万象に対する原初の人間の思考方式・行動様式の一つである。講義では、「呪」について、古代インド、古代中国そして上代日本のそれぞれの個別例を参照しつつ考察し、現代における人間の思考方式や行動様式について根本的に考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

"Ju" is one of the original human ways of thinking and acting on all kinds of creatures. In the course of the lecture, "Ju" will be considered with reference to the individual examples of ancient India, ancient China, and ancient Japan, and the way of thinking and acting in modern times is expected to be fundamentally considered.

5. 学習の到達目標：

「呪」に潜む二重性格 — 自然に聞き従う受動性と自然を操作する能動性 — を理解し、現代のわれわれの思考を根底から規定する地平を自覚する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To understand the dual nature of "Ju" - the passivity of listening to the voice of nature and the activeness of manipulating nature - and to become aware of the horizon that dictates our modern thinking.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 オリエンテーション
- 2 「呪」の具体例 ①
- 3 「呪」の具体例 ②
- 4 「呪」の一般的特徴①
- 5 「呪」の一般的特徴②
- 6 「呪」と「術」①
- 7 「呪」と「術」②
- 8 自然と人間①
- 9 自然と人間②
- 10 技術について
- 11 技術と芸術
- 12 「呪」と現代技術
- 13 「呪」の二重性①
- 14 「呪」の二重性②
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

出席5割、レポート5割

9. 教科書および参考書：

授業で指示する

10. 授業時間外学習：

みずから思考し、復讐を欠かさないこと

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

オフィスアワーは昼休み

科目名：倫理学特論Ⅲ／ Ethics (Advanced Lecture III)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中（2学期）、 単位数：2

担当教員：笠木雅史（非常勤講師）

講義コード：LM98830、 科目ナンバリング：LIH-PHI621J、 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

行為の哲学

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy of Action

3. 授業の目的と概要：

現代の分析哲学における行為の哲学についての入門講義である。行為の哲学の内実は多岐にわたるが、その中でも主要な問題である、「意図的行為」と「行為の理由」についての問題について学習する。それぞれの問題には、さまざまな哲学者によって異なる回答が提示されてきた。それらの異なる回答を理解するために必要となる概念的、理論的前提とともに、それぞれの回答がどのようなアーギュメントによって支持、批判されるのかを学習する。この学習を通じ、アーギュメントを自ら構築し、自分で哲学を行うことができるためのスキルの基礎を習得することが、本講義の主目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This is an introductory course in the analytic philosophy of action. Philosophy of action in contemporary analytic philosophy address many issues, among which issues about intentional action and reasons for action are of central importance. Different philosophers offer different answers to those issues. In this course, you will learn conceptual and theoreticl backgrounds of the prominent answers and skills in defending and criticizing arguments for them. The course aims to provide you with the basics for construcitng philosophical arguments and do philosophy by yourself.

5. 学習の到達目標：

- (1) 実験哲学を含む、現代分析哲学の分析手法とアーギュメントの構築方法を習得する
- (2) 行為の哲学における様々な問題の意義を理解する
- (3) そうした問題への回答がどのようなアーギュメントによって支持、批判されているのかを理解する

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To acquire argumentative skills in contemporary analytic philosophy including experimental philosophy
- (2) To understand the significance and importance of prominent issues in philosophy of action
- (3) To understand what arguments support and refute particular answers to those problems

7. 授業の内容・方法と進度予定：

各回の講義では、以下の問題についてのさまざまな回答とそれぞれの回答についてのアーギュメントを解説する。5回目、10回目、15回目の講義では授業中小レポートを課し、質問への回答を記入してもらう時間を設ける。

- (1) 行為はなぜ哲学の問題となるのか：意図的行為と行為の理由
- (2) 意図性概念を分析するとはどのようなことか
- (3) 理由ゆえに行為することは意図的行為の十分条件か*[1]
- (4) 理由ゆえに行為することは意図的行為の必要条件か*[2]
- (5) 意図を持つことは意図的行為の必要条件か
- (6) 行為の結果は行為が意図的かどうかに影響するのか
- (7) 意図性という概念はどのような機能を持っているのか
- (8) 「意図性」は多義的な語なのか
- (9) 行為を説明するとはどのようなことか*[1], [2], [3]
- (10) 理由という概念はどのような機能を持っているのか*[3]
- (11) 何が行為の理由となるのか*[3]
- (12) 何がどの行為の理由となるのか*[4]
- (13) 理由ゆえに行為するとはどのようなことなのか*[2]
- (14) 理由と価値はどのように関係しているのか
- (15) まとめ：行為の哲学の諸問題はどのように関連しているか

*印の番号は、以下に述べる関連する参考文献を指示している。必須ではないが、可能であれば読んだうえで受講することが望ましい。

8. 成績評価方法：

- (1) 全3回の授業中小レポートを課す（各10%×3）
- (2) 最終レポート(70%)

9. 教科書および参考書：

教科書は用いず、講義前に資料を配布する。本講義が扱う文献のうち、以下の日本語訳が存在するものについては、必須ではないが、読んだうえで受講することが望ましい。

参考文献

- [1] Anscombe, G. E. M. (1957/2000). Intention, 2nd Edition. Harvard University Press. 翻訳：『インテンション—実践知の考察』，菅豊彦訳，産業図書，1984.
- [2] Davidson, Donald. (1963). “Actions, Reasons, and Causes.” Journal of Philosophy, 60 (23): 685-700. 翻訳：「行為・理由・原因」，『自由と行為の哲学』収録，門脇俊介＋野矢茂樹他訳，春秋社，2010年収録.
- [3] Smith, Michael. (1994). The Moral Problem. Blackwell. 翻訳：『道徳の中心問題』，樫憲章他訳，ナカニシヤ出版，2006.
- [4] Williams, Bernard. (1979). “Internal and External Reasons.” Reprinted in his Moral Luck. Cambridge University Press, 1981. 翻訳：「内的理由と外的理由」，『道徳的な運』収録，伊勢田哲治 監訳，勁草書房，2019.

1 0. 授業時間外学習：

各回の講義で扱った問題について、その回答の内容と回答を支持、批判するアーギュメントの構造を復習すること。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

1 2. その他：

授業中の質問を歓迎します。授業に関するどのような質問でもよいので、ぜひ質問してください。

科目名：倫理学総合演習 I / Ethics (Integration Seminar I)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：戸島貴代志、村山達也（教授/准教授）

講義コード：LM11505， 科目ナンバリング：LIH-PHI622J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習 I 】

1. 授業題目：

発表と討論

2. Course Title (授業題目)：

Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：

参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course offers an opportunity to experience philosophical way of thinking to help students think about issues associated with the true, the good and the beautiful.

5. 学習の到達目標：

発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students think about philosophical problems for themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学総合演習Ⅱ／ Ethics (Integration Seminar II)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：戸島貴代志、村山達也（教授/准教授）

講義コード：LM21504， 科目ナンバリング：LIH-PHI623J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

発表と討論

2. Course Title (授業題目)：

Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：

参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course offers an opportunity to experience some philosophical ways of thinking to help students think about issues associated with the true, the good and the beautiful.

5. 学習の到達目標：

発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students think about philosophical problems for themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習 I / Ethics (Advanced Seminar I)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：戸島貴代志（教授）

講義コード：LM23405， 科目ナンバリング：LIH-PHI624J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習 I 】

1. 授業題目：

現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：

Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第 2 外国語としていない学生にも配慮する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「現象学」と「存在論」 1
2. 「現象学」と「存在論」 2
3. 「現象学」と「存在論」 3
4. 「現象学」と「存在論」 4
5. 「現象学」と「存在論」 5
6. 「現象学」と「存在論」 6
7. 「現象学」と「存在論」 7
8. 「現象学」と「存在論」 8
9. 「現象学」と「存在論」 9
10. 「現象学」と「存在論」 10
11. 「現象学」と「存在論」 11
12. 「現象学」と「存在論」 12
13. 「現象学」と「存在論」 13
14. 「現象学」と「存在論」 14
15. 「現象学」と「存在論」 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅱ／ Ethics (Advanced Seminar II)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：戸島貴代志（教授）

講義コード：LM98831， 科目ナンバリング：LIH-PHI625J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：

Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 西田哲学における存在概念とその探求方法を解明する。

3) ハイデガーについてはドイツ語を第 2 外国語としていない学生にも配慮し、西田については『善の研究』を中心に解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係把握する。西田哲学における「無」の概念について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「現象学」と「存在論」 1
2. 「現象学」と「存在論」 2
3. 「現象学」と「存在論」 3
4. 「現象学」と「存在論」 4
5. 「現象学」と「存在論」 5
6. 「現象学」と「存在論」 6
7. 「現象学」と「存在論」 7
8. 「現象学」と「存在論」 8
9. 「現象学」と「存在論」 9
10. 「現象学」と「存在論」 10
11. 「現象学」と「存在論」 11
12. 「現象学」と「存在論」 12
13. 「現象学」と「存在論」 13
14. 「現象学」と「存在論」 14
15. 「現象学」と「存在論」 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅲ／ Ethics (Advanced Seminar III)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM13208， 科目ナンバリング：LIH-PHI626J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

ベルクソン『創造的進化』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Henri Bergson's Creative Evolution

3. 授業の目的と概要：

ベルクソンの主著『創造的進化』(1907)の冒頭部をフランス語で読みます。ベルクソンは第一の主著『意識の直接与件についての試論』で「意識にとって時間とは何か」という問いを主に論じました。この第三の主著『創造的進化』冒頭部でベルクソンは、この問いを「物質にとって、そして生命にとって時間とは何か」という問いへと発展させ、興味深い議論を展開させています。この演習では、フランス語でベルクソンを正確に読み取りつつ、彼のテキストから議論を再構成し、その妥当性を吟味することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course we read the opening pages of chapter 1 of Bergson's Creative Evolution. We shall follow the order of that text and examine Bergson's key claims. The key themes covered are (consciousness of) time, creation, individuality, science and its relation to philosophy.

5. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to reconstruct arguments from them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（ベルクソンについての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

10. 授業時間外学習：

各回とも訳を用意しておいてください。参加者の人数や希望に応じて、動詞活用テストや訳の事前提出を課します。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅳ／ Ethics (Advanced Seminar Ⅳ)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM23207， 科目ナンバリング：LIH-PHI627J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

デカルトとエリザベトの往復書簡を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading the Correspondence between Elizabeth and Descartes

3. 授業の目的と概要：

デカルトとエリザベトが交わした往復書簡から、心身問題や倫理学に関わる問題を論じた箇所を抜粋して読みます。エリザベトの、ときに鋭く、ときに切迫した問いかけに、デカルトがどう答え（損ね）たか、エリザベトがデカルトをさらにどう追い詰めたのかを検討することをつうじて、近代哲学の根本問題についての理解を深めることを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this class, we read excerpts from the correspondence between Descartes and Princess Elizabeth and examine their philosophical discussions. Through this examination, we aim to understand mind-body problem, 17th century ethics, and the core problems of (early) modern philosophy.

5. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to reconstruct arguments from them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入（デカルトとエリザベトの往復書簡についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）
第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。必須ではありませんが、訳本には以下のものがあります。
『デカルト＝エリザベト往復書簡』（山田弘明訳、講談社学術文庫）

10. 授業時間外学習：

各回とも訳を用意しておいてください。参加者の人数や希望に応じて、動詞活用テストや訳の事前提出を課します。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅴ／ Ethics (Advanced Seminar Ⅴ)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

semester：1学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM15205， 科目ナンバリング：LIH-PHI628J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅴ】

1. 授業題目：

道徳批判と倫理学批判をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Critique of Morality and Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：

とりわけ1970年代以降、徳倫理学の復権とも軌を一にするかたちで、既存の倫理学や道徳そのものに対する批判が数多くなされてきました。この演習では、そうした批判をなした論文から代表的なものをいくつか取り上げ、担当者によるまとめを踏まえて議論していきます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this class is to understand criticisms on morality and moral philosophy proposed especially after 1970's. We pick up some papers representative of these criticisms and examine their background, validity, and importance. It also enhances the development of students' skill in posing relevant questions and discuss moral problems. F81

5. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。
- (2) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This class aims to improve students' ability to read academic papers and pose relevant questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回以降：発表と議論

取り上げる予定の論文は以下のとおり：

フィリッパ・フット「ニーチェ——価値の再評価」

スーザン・ウルフ「道徳的聖者」

ジュリア・アナス「古代の倫理学と現代の道徳」

(いずれも『徳倫理学基本論文集』勁草書房、所収)

8. 成績評価方法：

演習への参加度や小レポートなどで総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

すべてプリントで配布する。

10. 授業時間外学習：

対象となるテキストを事前によく読み、不明点、疑問点、反論などを考えておくこと（最初は上手くできなくても構わない。不明点や反論などを提示できるようになることも、この演習の目的の一つである）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

【重要】前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである（単位は取得できていなくても構わない）ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし、履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくこととなります。初回に相談してください。

科目名：倫理学研究演習VI／ Ethics (Advanced Seminar VI)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM25205， 科目ナンバリング：LIH-PHI629J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習VI】

1. 授業題目：

人生の意味と死をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy of Death and the Meaning of Life

3. 授業の目的と概要：

人生の意味の哲学や死の哲学は、現代の哲学においてそれぞれホット・トピックをなしています。この演習では、まずは、それぞれの主題をめぐる古典的な論文や、代表的な哲学者による論文を読み、それらについて議論します。それを踏まえて全員にレポートを書いてもらい、後半は発表演習とします。

初回に（参加人数を勘案しながら）予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course focuses on philosophy of death and philosophy of the meaning of life. After reading some classical texts, students are to submit essays on these issues. The classes of the last half of the semester will be devoted to presentations by students and general discussion.

5. 学習の到達目標：

(1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。

(2) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This class aims to improve students' ability to read academic papers and pose relevant questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回以降：発表と議論

取り上げる予定の論文は以下のとおり：

ロバート・ノージック「人生の意味」(『考えることを考える』所収)

スーザン・ウルフ「人生の意味」(英語)

シェリー・ケーガン『死とは何か』からいくつかの章

8. 成績評価方法：

演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

すべてプリントで配布する。

10. 授業時間外学習：

対象となるテキストを事前によく読み、不明点、疑問点、反論などを考えておくこと（最初は上手くできなくても構わない。不明点や反論などを提示できるようになることも、この演習の目的の一つである）。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

